

プロジェクトコーナー

ブラクール・一番人気は調理実習

(ひろしま祈りの石・国際教育交流財団助成)

ブラクールの学校はクリスマス休みでしたが、近くのハイスクール生 10 名に集まってもらいました。

職業訓練は講義中心の昨年度と異なり、本年度は実習が多く、1 年生は園芸・農業、2 年生は栄養・食品加工、3-4 年生は縫製です。このなかでは調理実習が一番人気です。家でもバナナチップを作ったり、限られた食材で栄養バランスのとれたメニューを考えているという生徒がいました。縫製はステッチ刺繍とミシンの直線縫いが終わり、1 月からはマノボ民族のブラウス縫製に挑戦の予定です。制服のブラウス作りにも応用できる技術です。

遅れている畜産技術も、学校の雌雄 3 匹のヤギを教材にあしなが奨学金で農業を学んだジェームズの指導でまもなく始まります。

ハイスクール卒で「手に職」が可能かどうかの評価にはまだ早すぎますが、生徒たちと話してみても、何か好きなことを見つけられれば収入につながる技術習得ができるのでは、と感じました。

苗木育成と栽培技術研修によるピラーンの村の収入向上事業

(WE21 ジャパンみどり支援事業)

5 月から始まったオムラオ、オロクロフェ、ダタルフィタク 3 村における「持続可能な農業」、「先住民の権利法 IPRA」「アバカ・ココヤシ・ゴムの木栽培技術」の各研修は、10 月ですべて終了し、受講した住民には苗木が配布されました。



有機農法専門家マノボ民族のマンパライアさんとともに研修の講師を務め、苗木育成から畑での実地指導を担当したボニファシオから写真報告が届きました。ピーナッツ畑に立つレジ

ー、ココヤシ苗を植えているカロフェ (写真)、ドリアン苗の手入れをするディグ、みんな本事業実施に向けて村の農業委員を引き受けた住民です。

1 月末で終了の本事業に対して、他の村からの研修実施希望がありますが、まずは 2 年前に

始めた苗木育成・配布事業のその後について、受講者の畑を廻り、必要な指導・助言をするのが先決です。ボニファシオには 3 ヶ月のモニター手当支援を約束しました。良い報告を期待しています。

クハンの原生林保護とアグロフォレストリー

(イオン環境財団助成事業)

2008 年 4 月の住民説明会から始まったクハン村の事業は、すでに報告のように研修や苗木移植がほぼ終了し、12 月 23 日訪問時は、バナナが背丈ほどに伸び、ラムブタンなどの果樹苗も 1 m 位に育っていました。一方、道路を挟んで反対側の急斜面は、緑色の同心円が頂上まで続いています (写真)。緑は刈り残したコゴングラスです。



PPF の傾斜地農法は、最初に成長の速い土留め灌木フラミンジャの種子を等高線状に播き、間にバナナ、果樹苗、換金作物ピーナッツを同じく等高線状に植えるようにします。しかし、クハンの急斜面はコゴングラスに覆われていたため、当面の土留め効果を狙ってこれを刈り残しました。

並行して実施中の ODA 資金による水道建設と作業日程が重なり、多少事業の遅れはでましたが、今後は病虫害にやられた一部苗の植え替え作業のみで、3 月末には完了する見込みです。

今後数年間は、バナナ、ピーナッツ、コーン等で生計を維持しながら果樹が実を結ぶ日を待つこととなります。短期的には、雨季の土壌流出減少とフラミンジャの葉の鋤き込みにより地力回復とコーン等の収量増加を見込めます。

クハン自然農業組合の残る世帯の約半数 15 世帯 15 ヘクタールについても、2009 年度事業として引き続きイオン環境財団の助成が決定しました。

ダグマ山系の環境保全と収入増加事業に参加する住民がまた増えることになり感謝です。